2026年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年２月12日

上 場 会 社 名　　株式会社ヤマノホールディングス　　上場取引所　　東
コ ー ド 番 号　　7571　　URL　https://www.yamano-hd.com/
代　　表　　者（役職名）代表取締役社長CEO　　（氏名）山野　義友
問合せ先責任者（役職名）取締役専務執行役員管理本部長　（氏名）岡田　充弘　　TEL　03-3376-7878
配当支払開始予定日　　―
決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年３月期第３四半期の連結業績（2025年４月１日～2025年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年３月期第３四半期	10,835	6.8	335	―	204	―	165	―	68	―
2025年３月期第３四半期	10,145	△0.2	8	△84.1	△73	―	△88	―	△222	―

（注）包括利益　2026年３月期第３四半期　61百万円（　―%）2025年３月期第３四半期　△164百万円（　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2026年３月期第３四半期	1.98	―
2025年３月期第３四半期	△6.37	―

（注）　EBITDA＝営業利益+減価償却費+のれん償却費

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年３月期第３四半期	8,319	1,353	16.3
2025年３月期	7,956	1,327	16.7

（参考）自己資本　2026年３月期第３四半期　1,353百万円　　2025年３月期　1,327百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2025年３月期	―	0.00	―	1.00	1.00
2026年３月期	―	0.00	―		
2026年３月期(予想)				1.50	1.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2026年３月期の連結業績予想（2025年４月１日～2026年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	14,400	3.1	640	73.9	500	95.3	450	90.4	320	665.1	9.18

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　：　有

新規　２社（社名）株式会社薬師スタジオ、株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジ、除外　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年３月期３Ｑ	35,830,058株	2025年３月期	35,830,058株
②　期末自己株式数	2026年３月期３Ｑ	954,469株	2025年３月期	954,469株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年３月期３Ｑ	34,875,589株	2025年３月期３Ｑ	34,875,589株

当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託（BBT）」に残存する自社の株式は、１株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また１株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書 …… 7
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書 …… 8
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間における国内経済は、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、エネルギー・資源価格の高騰による物価上昇や地政学リスクの長期化、米国の政策動向などを受け、先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは2024年５月にグループの使命（ミッション）を「豊かさと彩りあるライフスタイルを創造し続けます」と定め、2030年をゴールとするビジョンとして「従業員が投資したくなる会社へ」を掲げました。これを踏まえ、「中期経営計画～Tsunageru2027～」を策定し、2025年３月期からの３年間を経営基盤強化期間と位置づけ、各種施策を推進しております。

当期は本計画２年目にあたり、初年度の成果を踏まえつつ、「成長期待感の醸成」という新たな課題に対応するため、成長軌道への移行を見据えた事業ポートフォリオの最適化に注力しております。

また、当期より報告セグメントを「ニューバリューセグメント」と「コアバリューセグメント」の２区分に再編しました。これは、成長戦略の実行力強化および進捗管理・評価精度の向上を目的としたものです。ニューバリューセグメントは、教育・リユース・フォト事業を中心に、収益性と成長性の高い事業で構成し、事業承継型Ｍ＆Ａを通じてグループの成長を牽引する領域と位置づけております。一方、コアバリューセグメントは、和装宝飾および美容事業を中心とした既存事業群であり、成熟市場における事業効率の向上を通じて、利益の安定化とキャッシュ・フローの最大化を目指しております。両セグメント体制のもと、強固な事業基盤の構築を進めるとともに、「人的資本の活用促進」および「資本コストや株価を意識した経営」についても引き続き推進してまいります。

当第３四半期連結累計期間においては、2025年４月に写真スタジオ運営の株式会社薬師スタジオ、同年６月に株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジが新たにグループに加わりました。両社はいずれも、当社が成長戦略として推進している事業承継型Ｍ＆Ａによるものであり、長年にわたり培われた事業運営ノウハウや独自の強みを有しております。これらの取り組みを通じて、ニューバリューセグメントにおける事業領域の拡張と基盤強化を進めております。

売上面については、ニューバリューセグメントにおいて教育事業の堅調な推移に加え、新規連結２社の業績寄与により売上高が拡大しました。コアバリューセグメントにおいても、和装宝飾事業の新販売管理システム導入による業務効率化やライフプラス事業の回復が進み、成長領域と基盤事業の双方が寄与する形で、グループ全体として当第３四半期連結累計期間は前年同期比で増収となりました。

利益面については、２社のＭ＆Ａに伴い67百万円の取得関連費用が先行して発生したものの、増収効果に加え、各事業における収益性改善施策が想定どおり進展したことから、これら一過性費用を吸収し、前年同期比で大幅な増益を達成いたしました。とりわけ、キャッシュ創出基盤であるコアバリューセグメントにおいて収益構造の改善が継続的に進展したことが全体の利益成長を下支えするとともに、ニューバリューセグメントでは事業規模の拡大が進展しており、将来の利益成長に向けた収益基盤の強化を進めております。

当社は現在、「中期経営計画～Tsunageru2027～」の２年目として、成長フェーズへの移行に向けた基盤整備を着実に進めております。当第３四半期連結累計期間においては、成長投資と収益基盤強化の両立により前年同期比での増収増益を実現できた点を重要な進捗と認識しており、今後も成長領域への重点投資と安定的なキャッシュ創出を両輪として、資本効率の向上と企業価値の持続的拡大を目指してまいります。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の連結業績は下記のとおりとなりました。

〈連結業績〉　　単位：百万円

	2025年３月期 第３四半期 (累計)	2026年３月期 第３四半期 (累計)	増減額	増減率 (%)
売上高	10,145	10,835	＋689	＋6.8
EBITDA（注）１、２	8	335	＋327	―
営業利益又は営業損失（△）	△73	204	＋278	―
経常利益又は経常損失（△）	△88	165	＋254	―
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△222	68	＋291	―

(注)１．EBITDA＝営業利益(または営業損失)+減価償却費+のれん償却費
EBITDAに含まれるのれん償却額は70百万円（前年同期は47百万円）であり、主に教育事業及びリユース事業子会社の取得に係るのれんであります。

２．当社グループでは、重要な成長戦略として「事業承継型Ｍ＆Ａの推進」を掲げております。今後、係るＭ＆Ａ戦略を積極的に推進していくに当たり、のれんの発生及びのれん償却が業績に大きな影響を与える可能性があることを考慮し、有用な比較情報としてEBITDAを開示しております。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

（ニューバリューセグメント）

教育事業においては、株式会社マンツーマンアカデミー、東京ガイダンス株式会社、株式会社灯学舎の３子会社を通じて、関東エリアを中心に計66教室を展開しており、概ね順調に推移し、増収を確保いたしました。新規生徒募集や在籍生徒数の最大化、講習需要の着実な取り込みを図るとともに、サービス品質の向上を目的とした人財採用の強化や、教室長候補の早期育成に向けた研修プログラムの充実など、人財力の強化を継続しております。

リユース事業では、株式会社ＯＬＤ ＦＬＩＰにおいて、前期に引き続き収益構造改革を推進しております。ブランディングの確立に向けて、店舗販売における商材および販売体制の見直しに加え、ＥＣの拡充やＢｔｏＢ販売先の開拓など、販売チャネルの多様化を進めており、収益化に向けた基盤整備は着実に進捗しております。

2025年４月にグループ入りした写真スタジオを運営する株式会社薬師スタジオにより、フォト事業分野へ新たに事業領域を拡大いたしました。同社は、「ライフイベントに寄り添うフォト事業」を展開しており、高品質かつ独自性の高いサービスを強みとして、犬専門スタジオ、マタニティ、ニューボーンフォトなど、多様なニーズに対応しております。また、ＳＮＳを活用した情報発信にも積極的に取り組んでおります。

さらに、2025年６月にグループ入りした株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジは、リユース事業として２社目の展開となります。同社は、感度の高い若年層を中心に支持を集める先進的なリユースブランドとして、ＳＮＳを活用した情報発信によりファン層を着実に拡大しております。また、独自の店舗設計による空間価値の提供や、販売・買取に加えたトレード方式の導入など、独自性の高い取り組みを展開しております。新たにグループ入りした２社は、事業および業績ともに概ね計画どおりに推移しており、ニューバリューセグメントにおける事業基盤の拡充に着実に寄与しております。

以上の結果、ニューバリューセグメントの売上高は15億95百万円（前年同期比23.6％増）と大幅な増収を達成しました。一方、セグメント利益は56百万円（前年同期比5.3％減）となりました。これは、積極的な人財採用の強化や時給水準の上昇による人件費の増加など、中長期的な視点での収益基盤強化に向けた先行投資を行ったことによるものであり、さらに新規グループ入りした２社についても当期はＰＭＩ（Post Merger Integration）関連の先行費用が発生しており、これらの本格的な利益貢献は来期以降に見込まれております。

（コアバリューセグメント）

和装宝飾事業においては、前期に収益の安定化を目的として営業資源の再配置および不採算店舗の閉鎖などの選択と集中を推進いたしました。これらの構造改革の効果は当期も継続して顕在化しており、１店舗当たりの平均売上高は増加しております。大型展示販売会においては来場数はやや減少したものの売上は前年水準を確保しており、販売効率の向上および粗利率管理の徹底により、店舗当たり売上高と粗利率の双方が改善しております。期首より運用を開始した新販売管理システムに伴う業務プロセスの見直しについては、商品の引渡し早期化といった効果が現れており、これらの取り組みは通期を通じて業績に寄与する見通しです。

美容事業においては、前期に実施した営業資源の最適化および不採算店舗の閉鎖の影響により売上高は減少したものの、価格改定やサービスメニューの強化を通じて売上構成の改善を進めた結果、利益は大幅に拡大いたしました。加えて、ＦＣ店舗の増加および仕入コントロールの強化により、収益基盤は一段と強化されております。

ライフプラス事業においては、販売員および顧客の高齢化などの構造課題が続く中、販路拡大施策の推進や催事販売の強化、コスト管理の徹底等に取り組んだ結果、収益は大きく改善し、黒字化を達成いたしました。

以上の結果、コアバリューセグメントの売上高は92億39百万円（前年同期比4.3％増）、セグメント利益は２億59百万円（前年同期は１億８百万円の損失）となり、増収増益を達成いたしました。利益面の改善には一時的な増収要因もあるものの、構造改革や業務運営の見直しによる改善効果は着実に進展しております。

（２）財政状態に関する説明

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて３億63百万円増加し83億19百万円となりました。これは主に、現金及び預金が４億36百万円増加、のれんが１億43百万円増加、ソフトウェア仮勘定が１億12百万円減少、投資有価証券が87百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて３億36百万円増加し69億65百万円となりました。これは主に、電子記録債務が２億80百万円増加、１年以内長期借入金が87百万円増加、未払金が１億13百万円増加、長期借入金が２億82百万円増加、短期借入金が１億40百万円減少、前受金が２億88百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ26百万円増加し13億53百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金68百万円の増加、配当35百万円、その他有価証券評価差額金７百万円の減少によるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年５月15日公表の2026年３月期「売上高」「EBITDA」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」「１株当たり当期純利益」の業績予想については変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,438,983	2,875,142
売掛金	2,127,578	2,010,763
電子記録債権	6,591	1,931
商品	1,250,436	1,236,547
貯蔵品	109	50
その他	266,457	192,493
貸倒引当金	△12,940	△12,929
流動資産合計	6,077,215	6,303,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	732,970	759,423
減価償却累計額	△472,780	△493,632
建物及び構築物（純額）	260,189	265,790
車両運搬具	－	2,474
減価償却累計額	－	△823
車両運搬具（純額）	－	1,650
工具、器具及び備品	209,994	221,828
減価償却累計額	△189,525	△193,065
工具、器具及び備品（純額）	20,468	28,762
土地	36,511	36,511
リース資産	116,235	147,502
減価償却累計額	△79,532	△91,343
リース資産（純額）	36,702	56,159
有形固定資産合計	353,872	388,874
無形固定資産		
のれん	300,171	443,310
ソフトウエア	13,698	141,258
ソフトウエア仮勘定	112,500	-
その他	409	409
無形固定資産合計	426,779	584,978
投資その他の資産		
投資有価証券	121,975	34,810
長期貸付金	57,672	58,053
繰延税金資産	96,442	83,551
敷金及び保証金	786,012	829,380
その他	62,974	67,003
貸倒引当金	△26,665	△31,369
投資その他の資産合計	1,098,410	1,041,429
固定資産合計	1,879,063	2,015,281
資産合計	7,956,278	8,319,280

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	751,296	743,327
電子記録債務	693,399	973,555
短期借入金	1,040,000	900,000
1年内返済予定の長期借入金	345,045	432,112
リース債務	27,820	41,239
未払金	484,638	598,125
前受金	1,056,895	768,134
未払法人税等	112,661	18,218
賞与引当金	24,687	40,302
株主優待引当金	6,052	6,052
資産除去債務	2,152	2,164
その他	272,971	298,229
流動負債合計	4,817,620	4,821,462
固定負債		
長期借入金	1,299,457	1,581,932
リース債務	127,785	153,861
長期未払金	14,566	10,980
退職給付に係る負債	24,452	32,002
役員株式給付引当金	37,513	37,513
繰延税金負債	1,696	4,218
資産除去債務	292,954	309,765
その他	12,881	13,778
固定負債合計	1,811,308	2,144,052
負債合計	6,628,928	6,965,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	178,374	178,374
利益剰余金	1,223,180	1,256,888
自己株式	△91,497	△91,497
株主資本合計	1,320,057	1,353,766
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,291	-
その他の包括利益累計額合計	7,291	-
非支配株主持分	–	-
純資産合計	1,327,349	1,353,766
負債純資産合計	7,956,278	8,319,280

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2024年４月１日 至 2024年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年12月31日）
売上高	10,145,275	10,835,116
売上原価	5,057,349	5,353,061
売上総利益	5,087,926	5,482,055
販売費及び一般管理費	5,161,753	5,277,826
営業利益又は営業損失（△）	△73,827	204,229
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,497	5,393
助成金収入	4,810	6,558
その他	8,549	3,766
営業外収益合計	15,857	15,719
営業外費用		
支払利息	22,967	37,505
貸倒引当金繰入額	-	5,475
障害者雇用納付金	3,925	5,375
その他	3,364	5,616
営業外費用合計	30,257	53,971
経常利益又は経常損失（△）	△88,227	165,977
特別利益		
固定資産売却益	2,727	-
投資有価証券売却益	2,340	-
負ののれん発生益	-	11,513
特別利益合計	5,067	11,513
特別損失		
固定資産除却損	0	1,273
減損損失	4,517	-
投資有価証券評価損	81,354	–
投資有価証券売却損	–	5,045
店舗閉鎖損失	1,372	1,277
支払補償金	-	7,580
その他	1,262	4,478
特別損失合計	88,506	19,655
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△171,665	157,834
法人税等	50,566	88,860
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△222,231	68,974
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△222,231	68,974

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2024年４月１日 至 2024年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△222,231	68,974
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	58,197	△7,291
その他の包括利益合計	58,197	△7,291
四半期包括利益	△164,033	61,682
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△164,033	61,682
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却額（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2024年４月１日 至　2024年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年12月31日）
減価償却額	39,732千円	67,983千円
のれん償却額	42,879	63,732

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度までは「美容」「和装宝飾」「ＤＳＭ」「教育」の４つの報告セグメント及び「その他」としておりました。当社の中期経営計画（2025年３月期～2027年３月期）における事業ポートフォリオ戦略において、既存事業の安定強化を図るとともに、ライフスタイル関連領域での新規事業分野の開拓を推進することで更なる成長に向けた収益基盤を構築し、価値を創造することを通じて持続的な成長を目指すこととしております。そのため、当連結会計年度より、中期経営計画に沿った成長戦略の実行と計画進捗の適正な管理・評価を行う観点から、新たな事業領域において当社の成長を牽引する「ニューバリュー」セグメントと、安定した収益を担う既存事業群である「コアバリュー」セグメントの２区分に変更いたしました。

なお、前第３四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

旧報告セグメント
美容
和装宝飾
ＤＳＭ
教育
その他

新報告セグメント	主な事業内容
ニューバリュー	・教育事業 ・リユース事業 ・フォト事業
コアバリュー	・和装宝飾事業 ・美容事業 ・ライフプラス(旧ＤＳＭ)事業 ・着付教室の運営

Ⅱ　前第３四半期連結累計期間(自　2024年４月１日　至　2024年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	ニューバリュー	コアバリュー	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,290,491	8,751,453	10,041,945	—	10,041,945
その他の収益（注３）	—	103,330	103,330	—	103,330
外部顧客への売上高	1,290,491	8,854,784	10,145,275	—	10,145,275
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,188	3,188	△3,188	—
計	1,290,491	8,857,972	10,148,464	△3,188	10,145,275
セグメント利益又は損失(△)	59,157	△108,700	△49,543	△24,283	△73,827

（注）１　セグメント利益又は損失(△)の調整額△24,283千円には、のれんの償却費△42,879千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用17,947千円、棚卸資産の調整額０千円及びセグメント間取引の消去648千円が含まれております。全社収益は各グループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２　セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

３　その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：千円）

	ニューバリュー	コアバリュー	全社・消去	合計
減損損失	—	4,517	—	4,517

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間(自　2025年４月１日　至　2025年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	ニューバリュー	コアバリュー	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,595,254	9,161,358	10,756,613	—	10,756,613
その他の収益（注３）	—	78,503	78,503	—	78,503
外部顧客への売上高	1,595,254	9,239,861	10,835,116	—	10,835,116
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,963	1,963	△1,963	—
計	1,595,254	9,241,824	10,837,079	△1,963	10,835,116
セグメント利益	56,008	259,556	315,564	△111,335	204,229

（注）１　セグメント利益の調整額△111,335千円には、のれんの償却費△63,732千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用△48,035千円、棚卸資産の調整額0千円及びセグメント間取引の消去432千円が含まれております。全社収益は各グループ会社からの経営指導料等であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、この中には当第３四半期連結累計期間で発生した取得関連費用△67,435千円が含まれております。

２　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３　その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

２．報告セグメントの資産に関する事項

第１四半期連結会計期間において、株式会社薬師スタジオ及び株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第３四半期連結累計期間の報告セグメントの資産の金額は、「ニューバリュー」セグメントにおいて639,814千円増加しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第１四半期連結会計期間において株式会社薬師スタジオの株式を取得し、当社の子会社としたことに伴い、「ニューバリュー」セグメントにおいて、負ののれん発生益を11,513千円計上しております。

また、第１四半期連結会計期間において株式会社ニューヨークジョーエクスチェンジの株式を取得し、当社の子会社としたことに伴い、「ニューバリュー」セグメントにおいて、のれんが208,527千円増加しております。